



令和7年 8月

# 座談会御書

## 転重軽受法門

\* \* 地区



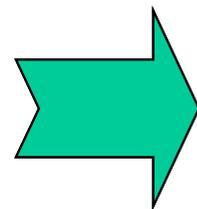
# 背景と大意

- 文永8年 50歳御作 在:依智
- 対告衆：大田乗明, 曾谷教信  
金原法橋（在下総）
- 竜の口後、相模・本間邸に滞在
- **大難**の意味・**転重軽受**を示す
- **末法**での折伏に**大難**は**必然**



# 宿命転換の法理

**歴劫修行**: 転生を繰返し修行



**宿命転換は事実上無理**

「大聖人の仏法」は  
一生成仏の「**蘇生**の宗教」

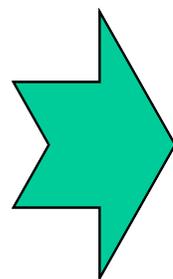
**転重軽受**は宿命転換の法理



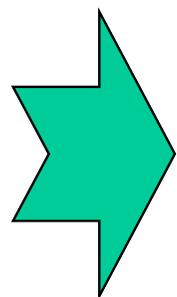
# 転重軽受法門

いかなる**罪業**も必ず**消滅**できる

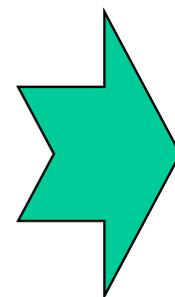
今生で  
**重苦**に値う



地獄の苦み  
ぱっと消えて



今世で直ちに  
**消滅**



**宿命**  
**転換**

重きを転じて軽く受く⇒今世で消滅



# 人天三乗一乗の益

迷いの境涯から、三乗・一仏乗の  
悟り・利益へと軌道を転換

- ・マイナスの罪業を最大のプラスに
- ・妙法を信受する功德は絶大

困難の壁は必ず切り開ける



# 指導より

- 悪から悪への六道輪廻を、今世の転換を起点に善から善への流転に入る
- 転重軽受の法門は、苦難を跳ね返す人間生命の真髓の力を教える法理

不幸の闇を払い、勝利の  
太陽が昇ると確信せよ